

# 単元名 「自然災害から命を守るために～もしもに備えよう～」 (第5学年 防災)

## ■本事例のポイント

1. 子供にとって身近な地域を題材とすることで、子供が必要感をもって様々な方法で情報収集して、課題解決に向かえるようにした。
2. 教科等横断的な視点から単元を構想をすることで、深い学びの実現を目指した。

## ■単元の目標

地域の自然環境や災害について調べたり、地域の防災意識の向上に向けた活動に取り組んだりすることを通して、自然災害が自分たちの生活と関わっていることを理解し、日頃から行える対策を考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

## ■単元の指導計画 (40時間)

### 第1小単元

「地域の自然災害と防災対策を調査しよう」

- ・自然災害や防災について、興味・関心のあることについて調査する。
- ・地域で想定される自然災害について調べる。

### 第2小単元

「命を守るためにできることを考え、災害に備えよう」

- ・防災の視点から、子供たち自身でできそうなことを考えて、備える。

### 第3小単元

「命を守るためにできることを発信しよう」

- ・調べたことを地域に伝える。

## ■本時の概要

校外学習での地震や暴風雨の疑似体験を生かし、新たな課題を設定し、調査する。

## めあて

体験で学んだことや感じたことを生かして、災害への備えを考えよう。



校外学習の画像や映像を見返すことで、その体験を通しての気づきを、情報の一つとして活用できるようにしています。

## 学習の流れ

- ① 体験で学んだこと、感じたことを出し合う。
- ② 災害発生時に起こりそうなことや困りそうなことを予想する。
- ③ 予想に対してできそうな対策を考える。



## ■ 学習調整をしている子供の姿

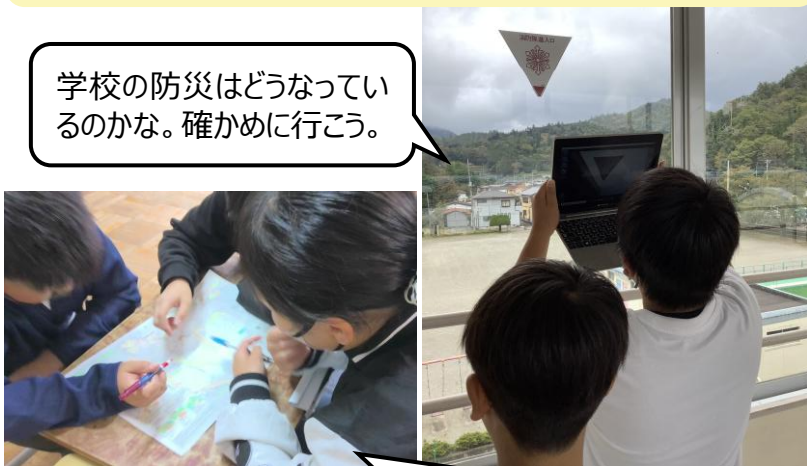
### 子供が学び方を選択・決定する場面の設定



付箋やICTなどそれぞれの方法でまとめる。

### 子供が学習課題を選択・決定する場面

学校の防災はどうなっているのかな。確かめに行こう。



地域のハザードマップを使って、危ないところを確認しよう。

## ■ 指導と評価の工夫

### ① 校外学習での疑似体験と日常生活との関連付け

- \* 地震や暴風雨の疑似体験を通して、それまでになかった気持ちや考えが生じ、その気持ちや考えを学級で共有することで、課題を明確にすることができる。
- \* 学校や地域を「防災」という新たな視点で捉えることができる。

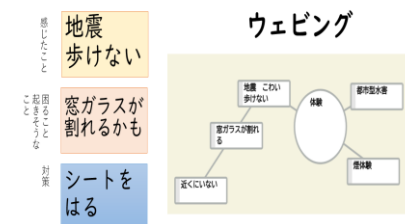
### ② 学習環境の調整

- \* ICT活用も含め、様々な学習ツールの選択肢を設けることで、目的に合ったまとめ方ができる。
- \* モデルを示すことで、見通しをもって学習に取り組むことができる。

まとめ方(例)

ホワイトボード 付箋 オクリンクプラス

ウェビング



### ③ 教科等横断的な学習と探究のプロセスを意識した単元計画の作成

- \* 子供の思いや願い、興味・関心等を大切に、各教科等の学びを意図的に取り入れる単元計画を立てることで、子供が学びを深めることができる。

### ■ 成果(○)と課題(▲)

- 体験したことと日常生活を関連付けながら、情報を整理したり、まとめたりすることで、自分事として主体的に学習に取り組む姿が見られた。
- ▲ 教師が更に防災に関する教材研究をすることで、子供が学校や地域で防災に努めている人に出会うことができ、探究的な学びの実現につながると考えられる。

【活用したアプリや機能】Microsoft Word、ミライシード